

福女王  
色どろ降臨!

服従  
家畜めし  
伝記

娘  
おしる  
ぬる  
ぬる  
サーズで  
発情中

クレオパトラが  
我が家に転生—!!  
エロ過ぎ命令が下されて!?

：薄闇の中で  
ピチャ、ピチャと静かな  
水音が響いていた

どうして  
こんなことに  
なったんだろう

そんなことを  
考えながら…

42ル

42ッ

これは報酬の  
前渡しのようなもの  
じゃからな

そなたは身を  
任せていけば  
いいぞよ

そなたの  
熱い精を全て…  
ぢゅぶっ、飲み干して  
やるぞよ

さあ…  
出すのじゃ!

ふふ…こつてりと  
喉に絡みつくような  
精じゃった

この国の男  
気に入ったぞ♪  
では、もっと出して  
もらおうとするか…

ビュッ  
ブツッ

ぐわっ  
ゴクッ

よいか、そなたは  
わらわの新たな  
召使い

そして召使いは  
主に奉仕  
するものじゃ

七  
び  
ら  
う  
っ

この子種袋が  
空っぽになるまで  
わらわを  
愉しませるがよい♪

ワス

ワス

どうして  
こんなことに  
なったんだろう

僕は普通に家に  
帰ってきて一

はあ…今日も  
ヘトヘトだよ

まあ  
いつものこと  
だけど…

まあいいや…  
それより家に戻ったら  
早く小説の続きを  
読まないと…!

僕の最近のマイブームは  
海外の人物の伝記を  
読むことだ

本当だったら有給を  
使って、どっぷり  
小説世界に  
浸りたいぐらいだ…

グ  
グ  
グ

あれ…?  
なんだか物音が  
するような…

マンシヨンは単身者向け  
恋人はおろか家族  
だっていない  
はずなのに――

あの…  
どなた  
ですか…？

一人暮らしのはずの  
我が家に…  
エキゾチックな美女がいた

……えっ？  
すみません…今  
なんと  
仰いました…？

だから  
クレオパトラと  
言っておろうが！

プトレマイオス王朝の  
クレオパトラ7世と  
言っても分からのか!?

プトレマイオス王朝  
それも7世と言われては  
間違いなく…あの  
クレオパトラのことだ

本来であれば  
女王陛下と  
呼ばせる  
ところじゃが…

面倒なもの  
好みではないから  
パトラと呼ぶことを  
許可してやるぞよ

よしよし無礼な男かと  
思ったが 分を弁えて  
いるようじゃな  
では：  
この世界の話を  
詳しく聞かせて  
もらおうかの

彼女は再び栄華を  
築くため、死の寸前に  
転生の秘薬を  
飲んだそうだ

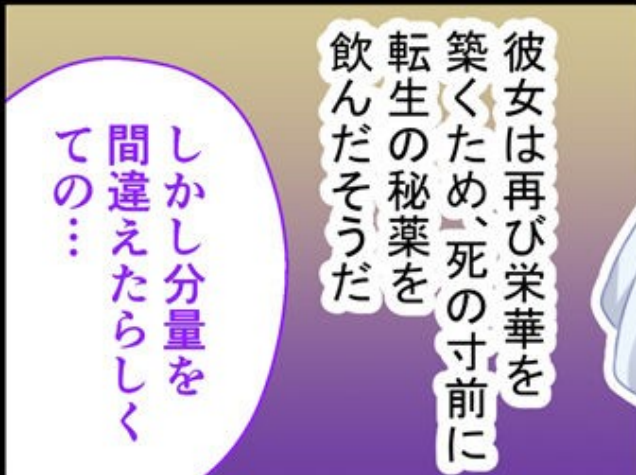
しかし分量を  
間違えたらしく  
ての…

コブラと秘薬を  
飲み干した後  
気がついたらここに  
おったのじゃ

この豚小屋の  
ように狭苦しい  
部屋にな！

あ、ありがとうございます…

その  
パトラ…様？



しかし宮殿とまでは  
いかぬが…作りは  
なかなか悪くない  
かもしれん

なによりもこの国  
この時代のことを  
色々調べることに  
先決じゃからな

…えっ?  
ま、待ってください!  
それって、この家に  
住むってことじゃ…

当然のことじゃ  
代わりに、そなたを  
わらわの召使い  
第1号にしてやろう

かの皇帝カエサルの  
心を奪ったわらわに  
尽くせるのだから  
そなたも幸せじゃろう♪

わ…わかりました  
あの、その…  
しばらく居て  
やってください…

よしよし  
そなたは  
本当に  
素直じゃ♪

そんな素直に  
召し使いには、  
少し褒美をくれて  
やるとするか♪

えっ?  
うわああ…!!

ちいはい♡



朝……  
ア……ア……って  
夢じゃなかった  
のか……？

なにを  
ボーっとして  
おるのじゃ

主人が  
起きたのだから  
さっさと湯浴みの  
用意をせんか



カイシャ……？  
よう分からぬが  
置いて行くことは  
許さぬぞよ

？  
そんなことよりも  
早々に朝餉の  
用意をせぬか！



それでは、この国を  
見て回るとするぞ  
そなた、わらわを  
案内せい



：結局、僕は強引に  
会社の休みをとられ  
外を案内させられた

くうっ！  
ば、馬鹿者っ！



帰宅後にはこのとおり  
マッサージをしろと  
命令された

それでわらわを満足  
させられるとでも  
思っておるのか!

ううっ、だって  
マッサージなんか  
したことないし…

いきなり敏感な  
ところを  
触るでない!



言い訳など  
いらんわ!  
いいから  
続きを…

きやつ!

なにを  
しているのじゃ!!

あ…んきゅっ!  
ち、違う…そこは  
尻の方じゃ!!  
へ…下手クソめ!!

翌朝  
僕はパトラの制止を  
ふりきって会社に  
出勤した

すっかり日も  
落ちてから  
僕は自宅の  
ドアを開けた

あはあっ  
なんじゃ…  
もう帰って  
きたのか？

どうせ…  
遅くなるのだからと  
思ってたのう…

久々にひとりで…  
おおっ、手慰みをと…  
くひいんっ♪

ちよっ…!?  
一体  
なに…!?

なんじゃ？  
わらわがするのは…  
ふ、不思議か…の？

これは単なる  
暇つぶし  
些細な余興よ…  
んんっ♪

香油を身体に振りかけて  
ぬるぬるになった身体を  
まさぐりながら、パトラは  
艶然と笑った

なんじゃあ？  
そんなに  
ファルスを  
堅くしおって

ほれ、近づいても  
よいのじゃぞ  
そしてわらわの  
ヴァルヴァア…

ホト  
女陰が  
奏でる調べで  
その劣情を  
解放するがいい

…おっと  
言い忘れておったが  
決して触れては  
ならぬぞ？

分かってるけど…  
こんなところ  
見せつけられたら…

よいか、決して  
己を慰めようと  
するでないぞ？

それが出来れば  
わらわが恩情を  
掛けてやろう…っ！

そっ、そんなっ!?  
自分で触るのも  
ダメなんて…

くはははっ!  
ダメじゃっ!  
そなたに触らせて  
たまるものか!

そもそもそなたが…  
こんな時間まで  
わらわを放って  
おくから…

その言葉でハッとした  
彼女が何故オニ二  
なんかしていたのか

ごめんって……  
でも、流石に  
そう何度も会社を  
休めないよ……っ

そなたには  
たっぷりとわらわの  
怒りを思い知らせて  
やるのじゃ♪

これはちよっと  
した罰じゃ

主人たるわらわを  
軽々しく  
扱ったことに  
対しての……な？

ほほ♪ そう睨む  
ものではないぞよ  
罰とはいえ  
ある意味で役得

さあ……  
もっと近くで  
見るがいい

その恨み  
がましい  
目が堪らん……!

わらわの熱い露を  
浴びながら、犬のように  
鼻を鳴らすがよいぞ♪



そうじゃ、その視線を  
わらわの女陰に……っ  
睨み付けるのじゃあっ!!

あひっ  
果てる…  
果てるっ!!

んっ  
んっ

く……っ  
くううんっっ!!



くくっ♪ どうやら  
心ここにあらずと  
いう様子じゃの

わらわも多少は  
楽しませてもらった  
ことじゃから

少しは情けを  
くれてやっても  
いいぞよ?

な、情けって…  
いいよ  
そんなの…

ふふふっ！  
それで良いのか？  
そなたのソコは  
なんと知っている？

本当はわらわの  
情けを受けて  
心地良く精を解き放ち  
たいのじやろう？

くうっ！  
すっ、すっ、すっ……  
これ、すごいよ……!!

ば、パイ●リが  
こんなにいるなんて  
思っても……

ほほう  
『パイ●リ』と  
言うのじやな

なかなか  
扇情的な  
言い回し  
ではないか♪

たほんっ

ふっ

ふっ

ふわわわっ!!  
そ、そんなこと  
されたら...うぐっ  
出ちゃうって...!

なんじゃ  
もう出るのか?  
一度出したらそれで  
おしまいじゃぞ

もっと  
愉しみたければ  
死ぬ気で  
我慢するのじゃ

そう言われては  
我慢するしかない

僕はぎゅつと唇を噛むと  
込み上げる衝動を  
必死に抑え込む

そう  
それでよいのじゃ  
わらわは男が我慢  
するのが好きでう

こうして...んんっ♪  
パクパクしている  
ファルスの先を...  
ちゅうっ♪

言うが早い、パトラは  
筒状にした舌を鈴口に  
押し込んでくる

うわっ  
うわああっ!!  
さ、先っぽは  
ダメだって!

先っぽとは可愛い  
物言いじゃのう♪  
ほれ、先っぽをもっと  
攻めてやるぞ

ほおれ、この  
可愛らしい穴に…  
舌をねじ込んで  
やろうっ

あぐっ！  
そっ、それ…っ  
それダメ…ダメ  
だって…おおっ！

んちゅっ

4ロツ

出したいのじゃな？  
だがダメじゃ  
わらわが満足するまで  
出すことは許さぬぞ

わらわの高貴な  
身体を穢すことは  
許さぬぞ♪

んぐっ

んむ

うっ、ぐぐぐ…っ  
む、無理だよ…  
パトラのおっぱい  
気持ち良すぎて…

もし許しもなく  
出そうものなら  
二度と情けはくれて  
やらぬ

射●の許可は  
わらわが出す  
それまでは死ぬ気で  
耐えてみよ

44

44

うっ、うぐっ  
出ちゃう…  
このサドっ！

さど……？

なんぞよう分からぬが  
わらわは自分が  
楽しければ良いのじゃ

特にそなたのように  
軟弱な男が苦しむ様は  
見ているだけで……  
女陰が熱くなるぞ♪

くうんっ、んん……っ  
改めて自覚すると……  
わらわも濡れてきて  
しまうぞ

本当にそなたは  
わらわの興奮を……  
ちゆるるっ  
掻き立ててくれるわ

あぐっ、うう……っ  
も……もう、本当に……  
あうう……っ

たぶ

たぶ

たぶ

たぶ

ふふふ……  
そろそろ限界も  
限界といった  
ところじゃのう？

よかろう、射●する  
ことを許可して  
やってもよいぞ♪

ウズ

ほ、ほんとに……？  
ほんとに出して  
いいの……？



パトラが僕の前に  
現れてから  
一週間が経った

『ぱそこん』  
という  
機械は本当に  
面白いのう

全世界のことを  
調べられるとは  
実に素晴らしい  
発明じゃな

確かに  
すごいよね  
昔はどういう  
感じだったの？

わらわの頃か？  
国内のことですら  
知らぬことがあつた  
ぐらいじゃぞ

クレオパトラって  
かなりの策謀家だつた  
らしいけど…

ましてや  
異国のことなど  
書物や旅人からの  
伝聞程度じゃつたな

カエサルの後ろ盾で彼女は  
弟王との対立を優位に進め  
女王として君臨した……

カエサル暗殺後は  
後継者争いをしていた  
アントニウスに後ろ盾を  
求めたんだ

でもアントニウスは  
オクタ비아ヌスに  
敗れ…

アントニウスは  
クレオパトラが  
裏切ったと絶望し  
自殺を図る

そして瀕死の彼は  
愛する  
クレオパトラの前で  
息を引き取った…

アヤト!

おいアヤト!  
なにをボーっと  
しておるのじゃ!

えっ!? あ…っ  
ご、ゴメンゴメン  
ちよっと  
考えごととして…

ド  
グ  
グ

ド  
グ  
グ

アヤト

それよりさ  
今日は  
なにか食べたい  
ものってある？



けど不思議だな 正直  
得体の知れない状況で  
酷い扱いされてるのに

パトラが喜んでると  
なんて言うかな…  
気分が良くなつて  
くるんだよな……

：ほほう そなたの  
豚小屋と違って  
なかなか広い  
ではないか

広い風呂に入りたい  
というパトラの要望を  
叶えるため、僕はパトラを  
ラブホテルに連れてきた

『らぶほ』なる場所に  
案内してくれた褒美を  
くれてやろう



さあ、そこに身体を  
横たえるのじゃ  
褒美として、わらわが  
マッサージしてやるぞよ

うっ、うわわわ…っ  
あ、あのっ、これは  
マッサージじゃない  
気が…

しゅっ

ほほ、ただの  
マッサージでは  
面白くないからのう

キュッ

それでは特別  
マッサージを  
始めてやるぞよ♪

ゴッ

ぽっ

え…!?  
パ…パトラッ  
それって…  
ああっ!!

んっ、はふうっ♪  
この汁、これは  
先走り汁と  
いう名じやったな

この苦い汁は  
わらわも好き  
じゃから…もつと  
絞り出すのじゃ!

ぐわぶっ

ピキキ

ピキキ

うわっ!  
そっ、そんな  
されたら…  
出ちやうって!

しゅっ

はるっ

ビュッ

ほほほ、精…  
そうそう  
ザー●ン  
じやったな♪

熱いザー●ンが  
出ちやうとでも  
言うのか? いいぞ  
存分に出すがよい!

ズッ

あはあ……♪  
なんとという  
匂いじゃ……

こんな匂いに  
包まれたら  
わらわも果てて  
しまいそうじゃ……っ♪

数日後

……ふふっ  
あの辛口な  
パトラでも

これには  
文句つけられない  
だろうな

今日も出勤時に駄々を  
こねられてしまったが  
このお土産のスイーツを  
見せれば、きつとパトラも  
許してくれるだろう

ガヤッ

僕は二人でスイーツを  
頬張る様を  
思い浮かべながら  
部屋に飛び込んだが……

くふふっ、もっ  
と堅くするのじゃ

もっともっと  
ファルスを  
滾らせるのじゃ！

ピョッ  
チョッ

おっ、おほっ♪  
マジでエロい  
姉ちゃんだな

ぐわほ  
ぐわぶっ  
なっ

それもなんかエロい  
格好したヤツじゃん  
マジ、なんかの  
罨だと思ったね

あまりの出来事が  
凍り付いていた  
僕に気付いたのか  
パトラが視線を向けてきた

まあ待つつのじゃ  
ちゅっ、ちゅうっ♪  
順番にフ●ラ  
してやるからのう

しっかしよー  
いきなり声  
かけてきて  
ビックリしたわ

クッストッ

なんじゃ、もう  
帰ってきたのか？  
くふふっ、そこで  
待つておるがいい

このファルスを  
存分に楽しむまでは  
…な？

はむっ

いいんすか？  
この兄ちゃん  
おねーさんの恋人  
とかじゃねーの？

これはただの召使いじゃ  
そなたらは気にせず  
わらわを愉しませるが  
よいぞ♪

この汁がたまらん  
嘔っている  
昔のことを思い出して  
しまうわ

一体なにが  
起きているのか  
理解が追いつかない

頭が胸が痛い…  
もうこんなところに  
いたくない!!!

なんじゃ  
アヤト?  
そなたも待って  
おるのじゃ  
後でそなたにも…

い…いいよ  
僕はそんなもの…

そなたら、この痴れ者の  
ことは気にするでないぞ  
見せつけてやるのじゃ

なんじゃと?  
召使いの分際で  
生意気なことを  
言うではないか

へへへっ  
分かってるって



まさか昨夜のこと  
まだ根に持って  
おるのではないか？

まあ……昔の人間って  
性に大らかかって書いて  
あったしな……

僕がいちいち気に  
しても仕方ないか……

そなたが  
言いたいことは  
分かるぞよ

わらわが性に  
奔放すぎると  
言いたいもの  
じゃろう？

気にするな あの程度  
ちよっとした余興にすぎぬ  
それに本番とやらを  
したわけではあるまい？

さあ  
食事の支度を  
するがよいぞ

それから数日後

この日、僕が会社を出て  
マンションに辿り着いたのは  
深夜1時を回った頃だった

こんな時間まで  
一体なにをやって  
おったのじゃー!!

迷惑をかけては  
良くないと  
遠慮していたが  
無駄じゃったな!

こんなことなら  
わらわの好きにして  
いればよかったわ!!

満足に召使いも  
出来ぬ輩が  
一丁前に嫉妬心か!?

貴様などに気を遣わず  
新たな召使いを探した方が  
有意義じゃったわ!

えっ!?  
そ、それって  
この前みたいなの…

だ…だったら  
そうすれば  
いいじゃないか!!  
僕だって大変なんだ!

キミみたいな  
ワガママ女に  
押しかけられて!!

無断で高価な  
ベッドまで  
注文されてさ!!

な…っ  
なななな…

なんじゃと…!?

好きにすればいいよ！  
だけど僕の家からは  
出て行ってくれないか！？

どこかで新しい男を  
たらしこんで  
好きなだけ女王様  
ゴッコすればいいさ！！

パトラは…そのまま  
部屋を飛び出して  
行ってしまった

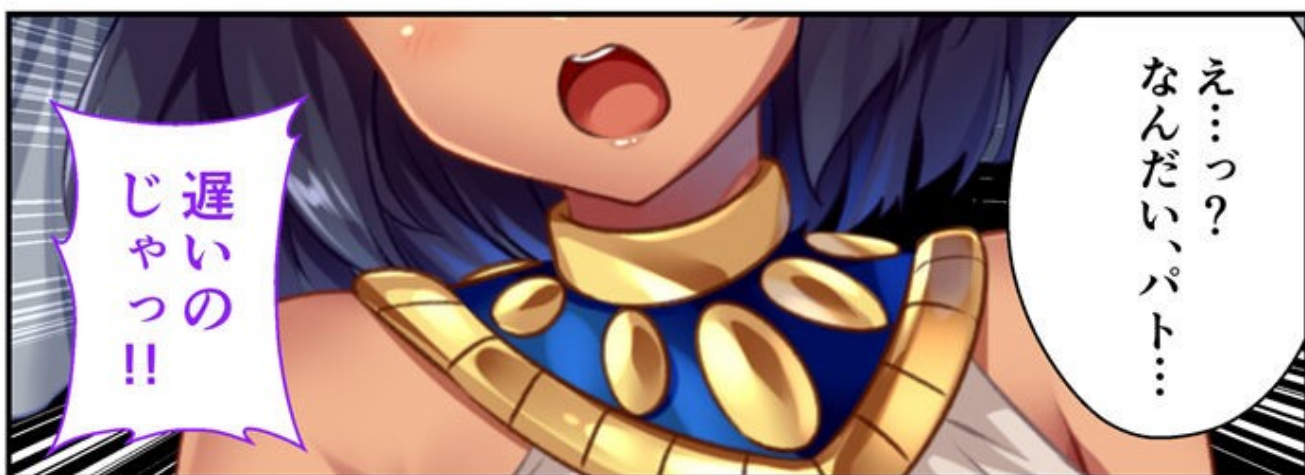
…そうか、よう  
わかったわ  
そなたがわらわを  
どう見ていたかが…

な…  
なんだよ

なんで  
あんな…

哀しそうな  
顔するんだよ…

…謝らないと  
パトラに  
謝らないと…！！



ふ…ふんっ！  
そなたは召使いな  
のだから当たり前  
ではないかっ！

その…わらわは  
まだまだこの時代に  
不慣れじゃから…

ゴミクズのような  
出来損ない召使いにでも  
頼るしかないと言うか…

なんだか酷い物言いだったが  
それでも僕を頼りにして  
くれているらしい

そなたこそ  
なぜわらわを  
追いかけてきた  
のじゃ？

罪悪感だけでは  
あるまい！？

そっ、それは…

ふん、わかって  
おるぞ



わらわが去って  
しまつては  
下らん日常に  
戻つてしまふ

そうじゃ、だから  
そなたは追つて  
きたのじゃ

んん？  
合つておる  
じゃろ♪

…それも  
追いかけてきた  
理由のひとつ  
かもしれない

けど、パトラのお陰で生活に  
メリハリが出来たのは本当だった

くふふふっ♪  
やはり図星か  
ならば戻つて  
やつてもよいぞ

ふふふの…？

ただし  
そなたが召使いの  
本分を弁えることが  
出来れば…じゃがな

今後はわらわに  
逆らうことは許さぬ  
わらわにかしずき  
忠誠を誓うのじゃ

ははーっ！  
仰せに従います  
女王様…！！

よかろう  
召使いに  
復職させてやる

そ…そうじゃ！  
わらわは腹が減って  
しまったぞよ！  
なんとかせいで！

ははっ！ それでは  
女王様がお望みの  
ものをご用意い  
たしましょう！

わらわは  
はんばーがー  
というものを食べて  
みたいぞ！

…あの一件以来  
僕は完全に  
パトラの尻に  
敷かれていた

しかし…  
僕はこれで  
良かったと  
安堵していた

もしあのまま  
別れていたら  
きつと後悔して  
いたに違いない



んっ

あっ、あは…っ♪  
よいぞ、んん…  
もつと続けるのじゃ

んっ

なによりも  
パトラと暮らすうちに  
彼女がいけない生活に  
耐えられなくなっていた

んっ



振り回されるのも  
悪くないというか  
奉仕のし甲斐が  
あるというか…

あ…ああっ  
腰が…あぐっ  
腰が蕩けて  
しまうぞよ…♪

もちろん、カチンと  
来る時もある

それでも彼女が見せて  
くれる笑顔、お褒めの  
言葉が嬉しかった

くううっ！  
女の子の  
お尻ってこんなに  
柔らかいんだ…!!

モ…

しゅ…

んんん

はあ…ああんっ  
アヤトあ…わらわの  
尻ばかり触って  
どういうつもりじゃ？

このお尻で  
射●したい…!!

も…もういいよね？  
これだけお尻を  
揉んでも大丈夫なんだから

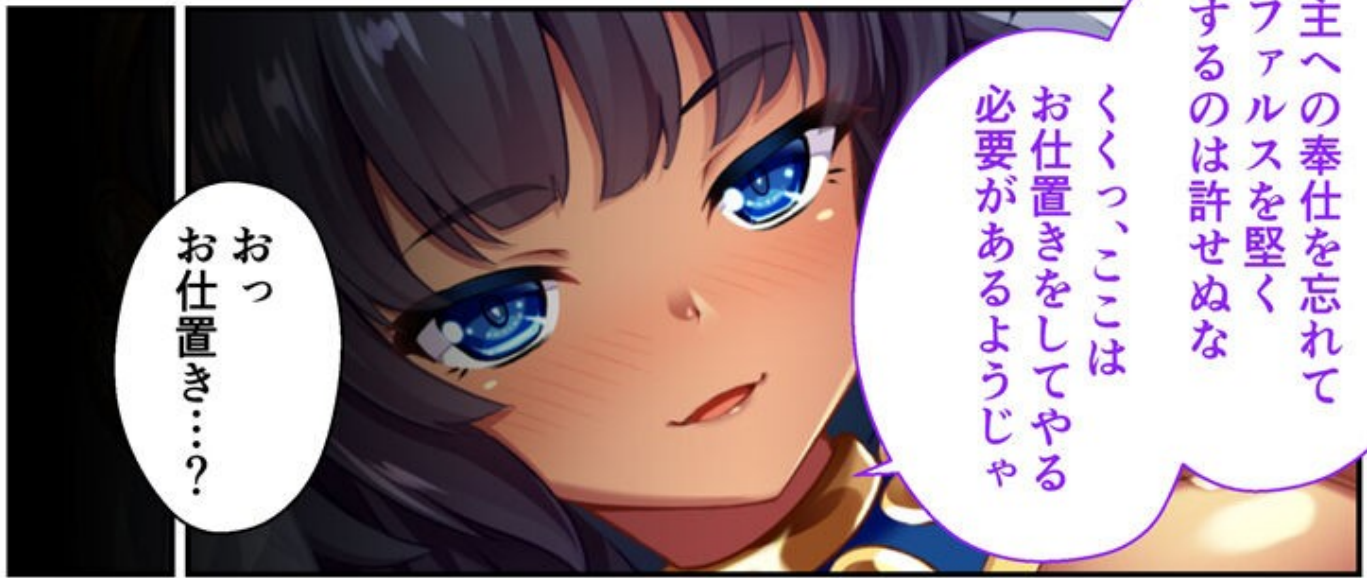
一番エツチな  
ところに触っても…!?

トラッ

…おっと  
そこまでじゃ!!

たまには好きにさせて  
やろうと思うたが  
さすがに調子に  
乗りすぎじゃな

すくっ

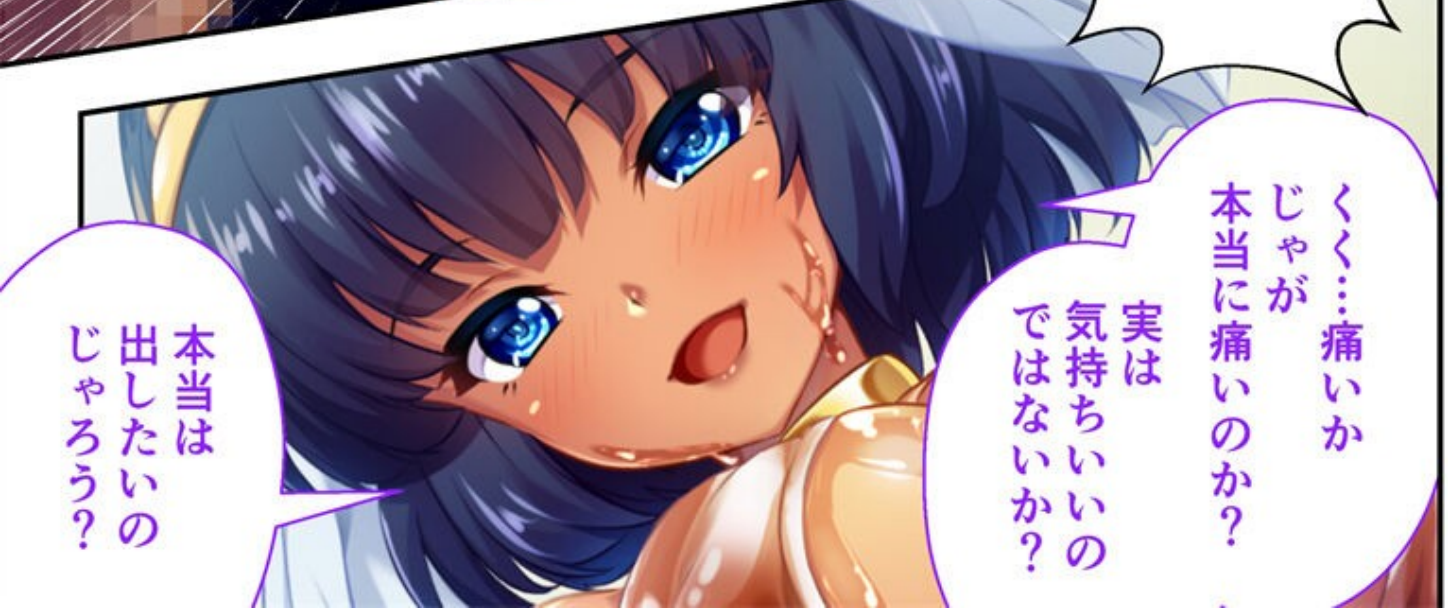


おっ  
お仕置き…?!

主への奉仕を忘れて  
ファルスを堅く  
するのは許せぬな  
くくっ、ここは  
お仕置きをしてやる  
必要があるようじゃ



あ…んぐつつ!!  
いっ、痛い…っ  
痛いって…!!



本当は  
出したいの  
じゃろう?

くく…痛いか  
じゃが  
本当に痛いのか?  
実は  
気持ちいいの  
ではないか?

腰をビクンビクン  
震わせながら  
ザー●●ンをブチ撒け

気が狂うような  
歓喜の顔をわらわに  
見て欲しいのじゃろ？

ほれ…っ  
ほれほれっ!!

あがー…っ!!

時々理不尽な  
お仕置きをされる  
こともあったが…

僕一人の生活と  
比べると  
僕の毎日は格段に  
充実していった

ぐっ  
ぐっ  
ぐっ  
ぐっ





どうして……？  
前にもこんなことが  
あったような気が……

どうじゃ  
わらわを独り占めに  
したくなってくる  
じゃろう……？

……ほほ、なにを  
我慢しておるのじゃ  
そなたは悔しく  
ないのか？

わらわが下賤な者に  
身体を開いている様に  
怒りを覚えぬのか？

そうじゃ、その顔じゃ  
わらわの全てを手に  
入れたいという激情  
それを見たいのじゃ

さあ  
そなたが奪うのじゃ  
さすれば、わらわは  
そなただけのモノに……

ああ……嬉しいぞよ  
わらわもそなた  
だけが欲しかった  
のじゃ……

……やっぱり  
そうなんだ  
僕に見せつける  
ために……！！

……その後のことは  
よく覚えていない

気がつくとも若者たちは  
姿を消してしまい、  
ポカンとした顔のパトラ  
だけが僕の前に立っていた

…やれやれ  
そなた、怒って  
おるのか？

まったく  
せっかくの  
愉しみをフイに  
してくれおって

わらわのする  
ことに意見  
するなと何度  
言ったらわかる…

…嫌なんだ

くふふっ、そうか  
そなたは嫉妬して  
おるのじゃな

違うっ！ すっ  
少しはそういうのも  
あるけど、もっと  
違うことなんだ！

キミが他の男たちと  
あんなことをするのが…  
嫌なんだ

くくくっ  
それが  
全てではないか  
わらわの身体を  
独り占めしたかった  
つまりは  
そういうことか

わらわの肢体を  
思うままに支配し  
欲望を叩きつけたい  
のじゃろう？

そうであれば  
甚だしい思い  
違いじゃ

それともなにか？  
わらわに相手して  
もらえるのは自分  
だけと思っただか？

そなたはただの  
暇つぶし  
お手軽な玩具の  
ようなものじゃ

そ…それでも  
少しぐらいは心が  
通じ合ってたよね…？

ふふ…くくくつ  
ペット程度には  
通じていたかも  
しれんな

僕はガツクリと肩を  
落とすと、血が滲んだ  
拳を見つめた

…そっか、そうなんだよな  
パトラが指摘したように  
僕は嫉妬していたんだ

そして彼女を独り占め  
したかったんだ

…それでも  
やっぱり嫌だよ  
だって僕はキミの  
ことを…

ぼっ、僕だけを  
見てよパトラっ!!  
僕だけの女王様にな  
って欲しいんだ!!

…ふむふむ  
つまり  
こういうこと  
じゃな

んんん

もっとわらわに  
支配されたい

寵愛を  
受けたいと  
いうこと  
じゃな?

ふふふっ♪  
独占したいというのは  
生意気じゃが、そなたの  
忠誠心は嬉しいぞよ

…えっ?  
ま、待って待って  
微妙に齟齬がある  
ような気がするよ

『僕だけの女王様』に  
なって欲しいの  
じゃろ?

よかろう!

今後一切他の男を  
連れ込むことはせぬと  
約束してやるのじゃ

そ、それは  
その…嬉しい…  
です

代わりと言っては  
なんだが、そなたには  
これまで以上に  
求めることになるぞよ

なにせそなた  
ひとりで我慢するの  
だから当然のこと  
じゃろう？

ね…ねえ、パトラ  
本当に…その  
セックスして  
いいの…？

か、構わぬぞ  
じゃがな、くれぐれも  
入れる前に果てるで  
ないぞ ほほほ…

んんん

じゅわん

あつ、あああ…っ！  
は、入っておる…っ  
そなたの  
ファルスがっ

わらわの中に…  
わらわの  
女陰にい…っ！！  
ひぎいっ！！

うわっ  
すっ、すごい…っ！  
風俗の女の子なんか  
目じゃないよっ！！

グッ  
グッ  
グッ

カッ

んぐっ、んううう…っ！  
やっ、やはり…破瓜は  
辛いものじゃな…っ

とはいえ、子を  
産む辛さに  
比べれば…  
くううっ！

まっ、待ってよ…っ！  
それってどういうこと…!!  
もしかして転生したせいで  
処女に戻ったっていうの!?

ま…まあ  
そういうこと  
じゃな…

じゃ、じゃが  
気にする  
でないぞ

わらわはそなたに  
くれて  
やりたかった  
のじゃ

これまでの  
褒美として…な

褒美って…  
純潔って  
もつと大切な  
ものじゃないか…

僕はパトラが決して一線を  
越えさせなかつた理由を  
ようやく察した

そしてそんな  
大事なものを  
僕に与えてくれた  
パトラの思いも…

ありがたいとう…  
嬉しいよ… だから…  
パトラが痛いだけなんて  
痛いままなんて…!!

なんじゃ、随分と  
優しいではないか

ム=  
もっと獣のように…  
ひぐっ、求めてくる  
ものとはばかり…  
くううんっ

パトラが苦しむ  
ところ見たくないし…  
痛かったら…っ  
言っよね?

ム4  
ぐもぶっ

ふふふっ、そなたは  
優しい男じゃな…  
まるであの方の  
ように…

え…?

な、なんでも  
ないのじゃ  
それよりも…んんっ  
もう大丈夫じゃぞ

少しぐらい  
強めの方が…  
早く慣れると  
いうものじゃ

パトラの中がぎゅっと  
締め付けてくる

んんっ♡

それはフ●ラとも  
パイ●リとも異なる  
別次元の快感だった

ぐわっ  
ぐわっ

おっ、おひっ  
そんな…  
奥までねじ込み  
おってえっ♪

わらわの女陰っ  
そなたで  
いっばいに  
なっておるうっ♪

すごく気持ちいいよっ！  
エッチなヒダヒダが  
絡んできて…っ  
出ちゃうっ！！

きゃひいいいんっ！！  
出てるっ、わらわの中に  
熱いのが…っ！

ビュッ  
ビュッ

ご…ごめんっ  
今度はパトラも  
イカせて  
あげるから…！！

ひぎいいいっ！！  
そんな強くうっ  
壊れる…壊れて  
しまっぞよっ！

だっ、だっって  
止まんないんだ…っ！  
パトラが悪いんだ…っ！！

オゲムッ

チュポ  
チュポ

こ…この  
馬鹿者お♪  
そんなにわらわが  
欲しいかっ

オゲムッ

だ、だったら…  
わらわを  
果てさせる  
のじゃあっ！！

はっ♡

わかってるよっ  
パトラを  
イカせてやる…っ！！

オゲムッ

オゲムッ

ああんっ  
嬉しいことを  
言いおつてえ…♪

チュポ  
チュポ

オゲムッ

ガチガチの  
熱いファルスで  
わらわをイカせる  
のじゃあっ♪

はっ♡

わっ、わらわの奥う…  
大事な子袋が突き上げ  
られておるう♪

そこっ、そこが  
一番気持ちいい  
のじゃっ!!

そ、そっか、パトラは  
子●口がいいんだね!  
ポル●オが好きなんだっ!!

ぼる●お…っ?  
そうじゃ、ぼる●お  
大好きなのじゃあっ!!

もっともっとおっ!  
ぼる●おして  
欲しいのじゃあっ!!

僕も…くううんっ  
気持ちいいよお!!

そうか…っ、それは…  
あひんっ、わらわも  
嬉しいぞよ…♪

だ…だったら、わらわと  
一緒に…んくうっ  
一緒にイクのじゃ…っ!!

うんっ、うん…っ!  
パトラと一緒に…  
イクよおっ!!

じゅわっ  
じゅわっ

召使いのつ  
ご奉仕用ファルスで…  
イクうううっ!!  
イっくうううっー!!

ビュッ  
ブュッ

あああああっ!!  
イク…っ  
わらわもイクうっ!!

あゝ  
あゝ

ビュッ

あれからの日々は  
とても穏やかだった

パトラ自体は  
相変わらず我が侂で  
理不尽なことばかり  
言ってくるけど

ふううう♪  
そなたも  
マッサージに  
関してはプロ並み  
じゃな

んんっ  
心地良いぞ♪

ギュー  
ッ

えへへっ、嬉しいな  
そんなこと  
言われるともっと  
頑張りたくなるよ

ふふふっ♪ そなたは  
誉めれば伸びるタイプ  
なのかもしれんかう

ギュー  
ッ

実はさ、ちよつと  
整体についても  
勉強してるんだ

ほら、パトラって  
胸とか大っきいから  
凝ってそうだな…って

くくっ  
その妙技、もっと  
披露してもらおう  
かのう？

ギュー  
ム

ギュー  
ム

ハァ

ハァ

わわわわっ!!  
パ、パトラっ!!  
これじゃマッサージ  
できないって...!!

クニャ

ジュッ  
ジュッ  
ジュッ

クリュッ

バキュ

ああんっ♪  
そなたは本当に  
エッチな男  
じゃのう

わらわの  
乳を驚掴みに  
するとは...んっ  
きゃうんっ♪

そ...それじゃ  
今日はこっちの  
マッサージを  
させてもらうよ?

よかろう♪  
じっくりと『マッサージ』  
するのじゃぞ  
じっくりと...な?

お...おおうっ  
心地良いぞ...っ!  
こんなことをされては  
マッサージなのに

モニ

ピン

モニ

たかがマッサージ  
なのに…  
イってしまおうわ…♪

んん…  
いつでも  
イって  
いいからね…？

奉仕ってこんなに  
嬉しいことなんだな  
相手に喜んで  
もらえるのって…

あひっ、ふえええっ!!  
もっとわらわに  
奉仕するのじゃ  
そなたの主…いっ!

パトラ…  
ご主人様…っ!  
ぢゅるるるっ!

あああっ、アヤトっ!  
わらわだけの召使い…っ!  
そなただけがわらわの…  
召使いじゃ!

イ…イクうっ!  
召使いに奉仕されて…  
イクっ、わらわ…  
イってしまおうっ!

あひい…っ♪  
イ…イったばかりだと  
いうのに、そんな…  
くうううんっ♪

でも…くうんっ  
イった身体が解されて  
いくようじゃ…  
んはあ…っ

気持ち  
良かった…？

パトラって  
弱いところ  
ばっかりだよね  
乳首もそうだし

ポル●オも  
大好きでしょ？

ん…んうううっ  
そんなこと聞くでないわ  
こ、心地良かったに  
決まっておろう…？

あっ、うううんっ!!  
いっ、意地悪  
なのじゃあ…っ!!

わらわが怒らないからと  
調子に乗って…ひいっ！  
同時に捻るなあっ！！

ゴッ…  
ぎゅっ♡

ううん、本当に  
怒ってるならやめるよ  
でもパトラ、怒って  
ないから…ね？

ふああっ、調子に  
乗りおつてえ♪ あとで  
ほっぺたが千切れるほど  
抓ってやるぞよ

それとも  
ファルスが  
再起不能に  
なるほど—

ロ

しゅっ♡

あっさり和本心を  
曝け出すとパトラは  
ぎゅっつと僕の腕を  
掴んでくる

それはもつと続ける  
もつと激しくしろ  
という『命令』だった

仰せのままに…  
ご主人様♪

はひっ、はひいっ  
気持ちいい  
のじゃあ！

ハッ♡

今日はパトトラを  
連れて再び  
ラブホテルに来た

そなたのファルスは  
本当に大きいのう  
こんなものがわらわの  
中で…くうんっ♪

そなたも  
わらわに奉仕せい  
なにをすべきかは  
わかるじゃろ？

うん  
だって僕はキミの  
召使いだし…っ♪

おっ、おほおっ!!  
そ、それは駄目じゃ  
そんなに吸い付かれたら  
蕩けてしまうう♪

あひいいんっ!!  
女陰の中身が  
吸い出されて  
しまうぞよっ♪

くひいっ!  
もう駄目じゃ…  
イってしまっ



召使いに女陰を  
むしゃぶりつかられて  
イクうっ!!  
んひいいいいっ!

ビュッ

絶頂後の心地良い  
疲労感が身体を  
包む中

パトラはゆらりと  
身体を起こすと  
そのまま僕の上に  
またがってきた

んおおおおっ!!  
入ってきておる...っ!!  
そなたの  
デカファルスっ...

すいっ

にゅるっ





そ、そなたも  
心地良くなつて  
欲しいのじゃ!

そなたは優しい男  
じゃから、わらわに  
合わせているだけ  
なのじゃろうし…

パトラ……

ひぎい……つつ!?  
まっ、待つのは  
まだ話は終わって…  
はひいいいっ!!

もっ、もう…っ  
まだ話の途中じゃと  
いうのにな

くうううっ!  
気持ちいいよっ  
パトラあ…!!

そ…っ、そうかっ  
わらわも…あひいっ!  
こっ、心地良いぞっ!

じゅわっ  
じゅわっ

ぶほ  
ぶほ

ぶほ  
ぶほ

ぢゅわっ

はひ…いんっ!  
わらわのことっ  
もっと可愛がる  
のじゃあ♪

それが…っ♪  
召使いの  
勤めという  
ものじゃぞっ!

うんっ!  
女王様を  
可愛がって  
あげるっ!!

ブダッ

きゃひいんっ!!  
ぽる●お  
きたあっ♪

わらわっ  
イクうっ!!

ぽる●お

ぽる●お

ぽる●お

そなたもイケっ!!  
わらわのぽる●おに  
あつついザー●ン  
ぶっかけるのじゃあ…っ!!

ブダッ  
ブダッ  
ブダッ

ブダッ

ブダッ

はひーっ  
はひい…っ！  
精●でたふたふう♪  
気持ちいいのじゃあ…

やっぱりふたり  
一緒に気持ちいい  
のがいいよね  
パトラ…？

ニユホ…  
ニユホ…  
ニユホ…

はひ…っ  
そうじゃな…  
ふたりで気持ちいい  
のが…最高じゃあ…♪

だって…はへえ…っ  
そなたはわらわが  
愛した…

…えっ？  
パ、パトラっ  
今なんて…？

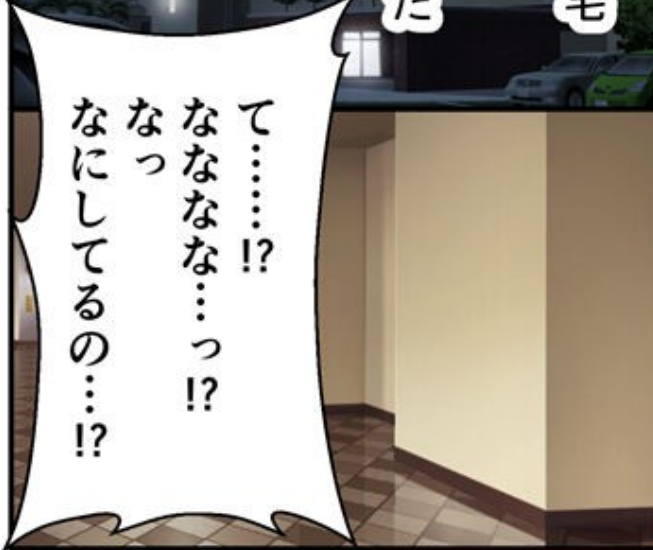
ひいいん…♪  
なんじゃあ…？  
またしたい…？

くふふっ、少し…  
少しだけ  
休ませてたもれ…

僕の質問に答えないうまま  
パトラはゆっくりと  
身体を傾けさせると

そのまま僕の上に身体を  
預けてくるのだった…

数日後 僕が帰宅する頃、すでに深夜の1時を大きく回っていた



て……!?!  
なななな……っ!?!  
なっ  
なにしているの……!?!

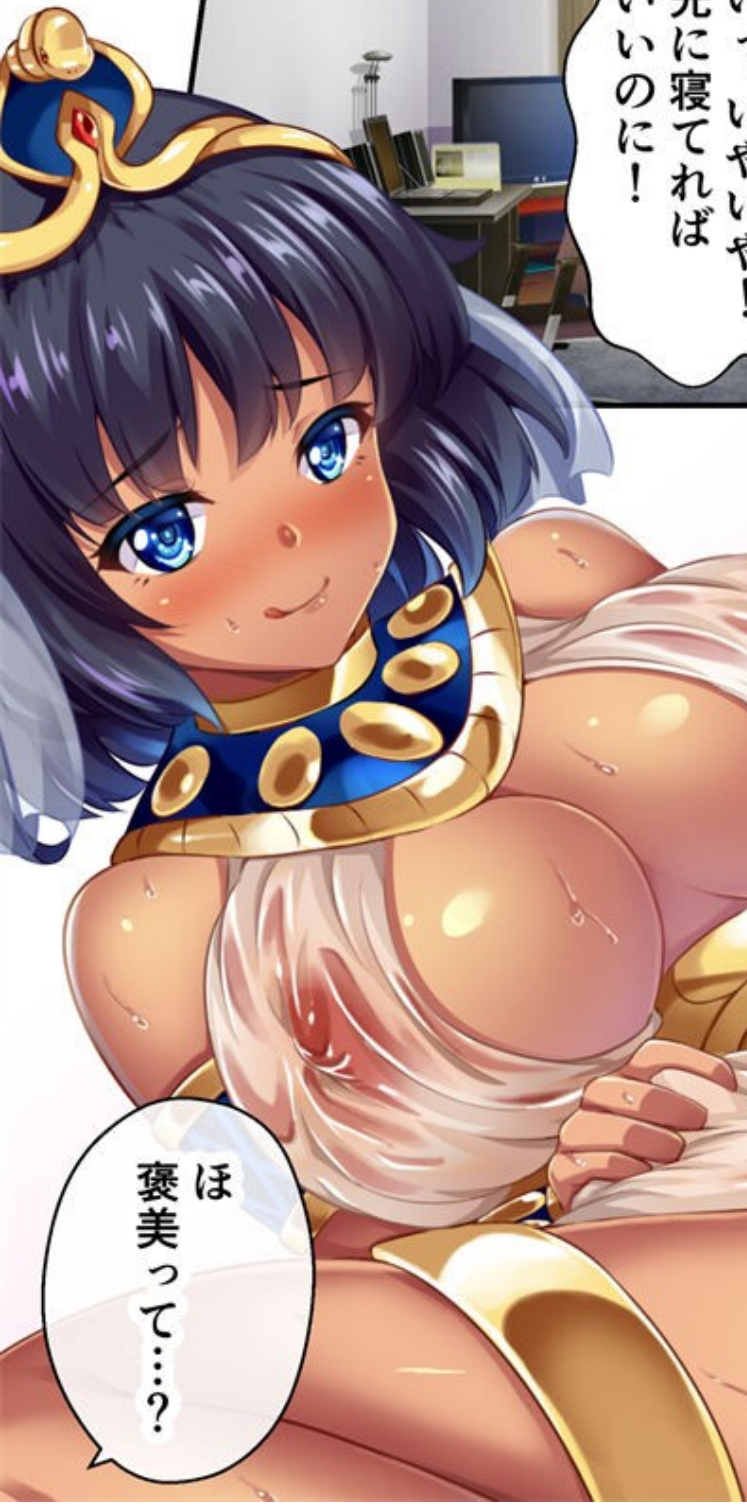


み、見ればわかるじゃろ  
オ●ニーじゃよ  
オ●ニー♪  
ちよつと気分転換に……な?

んんん  
んんん



いっ、いやいや!  
先に寝てればいいのに!



そういうわけにもいかんじゃろ♪  
そなたが勤めに出ているというのに……

なによりもそなたが戻ったら、あひつ褒美をやるうと思っておったしな

んんん  
んんん  
んんん  
んんん

ほ褒美って……?

くふふふっ  
ほれ、この秘薬を  
そなたに授けて  
やるぞよ…

疲れたそなた  
には必要なもの  
じゃからな

イン！

僕はパトラに  
渡された  
緑色の液体を喉に  
流し込む

その瞬間……！！

パトラ ああっつっ！！

僕は獣のような声を  
張り上げながら、パトラを  
ベッドに押し倒していた

アッ

グニ

グニ

くっ、くっ、くっ、  
効果観面という  
ところじゃのう

だ…だって  
あの秘薬を  
飲んだら、身体が  
熱くなつて…っ！！

フフツ ただの  
精力剤じゃが  
予想以上に効いて  
しもうたようじゃ

ほおれ  
さきほどの  
オ●ニーで  
準備は出来て…

アッ

んほおおおおっつ!!  
ば：馬鹿者っ、まだ話は  
終わって：ひぐうっ!!

ズツ  
ズツ  
ズツ

もうパトラの言葉が  
終わるのを待って  
いられなかった

こんなの  
飲ませるから  
悪いんだよっ!!  
うおおっ!!

ズツ  
ズツ

ズツ  
ズツ

すっ  
すまぬのじゃっ!  
だっ、だから  
もっとしてえっ!!

止めなくて…  
いいのじゃっ!

こうなることは  
くひーっ!  
わかっていたっ  
からあっ!!

わかってた…?  
な、なにそれ…っ!?  
あっ、気持ちいいっ!!

ズツ  
ズツ

ズツ  
ズツ

なんだが大変なことを  
聞いてしまったような  
気がしたが

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ

ひああああっっ！  
出てるのじゃっ  
わらわの子●に  
ザー●ン出てるうっ！

それよりこの肉穴を  
貪るので忙しかった

はあっ、はあっ！！  
アヤトに壊されて  
しまいうっ！！

召使いに女陰を  
壊されてっ  
ファルスの虜に  
なってしまう…っ！！

そなたのモノに  
なってしまうう！

僕のモノに  
なってよっ！  
ずうっと  
僕のモノに…っ！！

だっ、駄目じゃっ  
それだけは…  
駄目なのじゃっ！

そなたのものになって  
二度と離れられなく  
なってしまう  
のじゃあ…っ！！

ビュッ  
ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ



それから僕は  
仕事に奉仕に充実した  
毎日を送っていた

…のう、アヤト  
そなたは、わらわの  
なんなのじゃ？

えっ!? そっ  
それは…その  
召使いの  
つもりだよ

…実はな、最近  
よく昔のことを  
思い出して  
しまうのじゃ

……  
やっぱり  
昔の方が  
よかった……?

ふ… それは  
どうじゃろうな

わらわには  
権力闘争に明け  
暮れた記憶  
しかないから

そなたはわらわの  
伝記を読んでいた  
じゃろう？

わらわが頼りにした  
男どもは、皆、道半ばに  
して死んでいった

ポンペイウス  
そしてカエサル  
わらわが最期を看取った  
アントニウスもな…

わらわは数多の男を  
籠絡し死地に追いやった  
稀代の悪女に過ぎぬと  
いうわけじゃ

いや…わらわは  
疫病神かもしれぬ

あの者たちも、わらわと  
出会わねば死ぬことも  
なかった。そうは  
思わぬか？

僕は答えられなかった  
確かにそれは歴史の  
真実だったからだ

カエサルもポンペイウスも  
そして最後にクレオパトラが  
頼ったアントニウスも……

……ああ、そうだ  
彼女の死の報告を受けた時  
彼は全てを諦めた

しかし彼女に裏切られた  
ことは、戦に敗れたこと  
以上に彼の心を抉った

冷たく堅い刃を胸に突き通し  
せめて魂となつて再び  
相まみえようと……

……つつ!?  
なんだこれ!  
これは誰の記憶!

いつだったかも  
僕はこんな顔を  
見たような気がする  
遠い遠い過去に!

……おい  
どうしたのじゃ!?  
アヤト!  
アヤト!!

気がつくつと、パトラの  
怯えたような顔が  
目の前にあった

う……ううん  
なんでもないんだ  
心配させてごめんね

それと……パトラは  
疫病神なんかじゃない  
それだけは僕が  
保証するよ

……そうか

そなたは本当に  
良く似ているのう  
姿形ではなく  
その心が……



翌朝

パトラは朝食の時もずっと上の空だった

パトラが疫病神だなんて…歴史的にはそうかも知れないけど

それはただの結果じゃないか……

せっかくの土曜日だしさ  
ちよつと散歩にでも行こうよ!

僕は渋るパトラの手を掴むと、少々強引に外に連れ出すことにした

手間を掛けさせたな  
甘いコーヒーは  
大好物じゃ

どう?  
少しは元気が  
出てきた?

ふふっ  
そうかもしれんない  
そなたのぎこちない  
気遣いのお陰じゃ

：そうじゃ  
たまには趣向を変え  
衆人環視の中で  
してみんか?

…しかしここは  
真つ昼間の公園  
今この時も目の前を  
親子連れが歩いてる

くくくつ  
安心するがよい  
この秘薬を使えば  
いいだけのことじゃ♪

きやうっ♪

人前で  
まぐわうのが  
これほど  
とは…

きやつ！  
なにを  
フラフラして  
おるんじゃっ！

本当は他の場所にも  
ご奉仕したい  
ところだけど  
支えるので精一杯だ

わらわはぼる●おの  
方が好きなのにっ  
もつと奥までガンガン  
するのじゃあつ！

そればっかりだと  
飽きちゃうってば  
ほらっ、こっちだって  
気持ちいいでしょ？

…ねえ、パトラ  
追加の腕が生える  
秘薬とか…  
あるわけないよね？

そなたのことじゃ、なにを  
考えていたなど  
お見通しじゃぞ

パトラはからかうように笑うと  
自ら乳首に指を伸ばした

キョウウウウ

ゴググ

腕を増やしてわらわの  
乳首でも弄りたかった  
のじゃろ？  
この変態めっ♪

きょううんっ♪  
こうした  
かったのか？

乳首を捻り上げて  
いやらしい声を  
上げさせたかった  
のじゃろっ!?

ゴググ

ならばわらわが  
おのれでやって  
やるわ♪

乳首いつ、ぎゅーって  
したら…あひんっ♪  
気持ちいいのじゃあっ♪

ううっ、僕が奉仕  
したかったのに…!!  
いいよっ、こっちの方に  
集中するからっ!!

ゴググ

キョウウウ

しゅっ

ぐっ

あひいっ!  
そこっ、そこ  
好き  
なのじゃあっ!

エロ汁が  
出ちゃう…っ!!

…どういわけか  
子供たちは全く僕たちに  
興味を示していない

それどころか、道行く人々も  
噴水の中の情事に  
目を向けようともしなかった

くくっ、さきほどの  
秘薬はのう…他者から  
存在を隠すという  
効果があるのじゃ

…なら  
安心したよ

露出プレイも  
好きなんて  
少しビックリ  
したけど

でも僕は  
エッチで変態な  
パトラが好きだよ

ズグッ

ズグッ

ズグッ

いっ

ズグッ

しゅっ

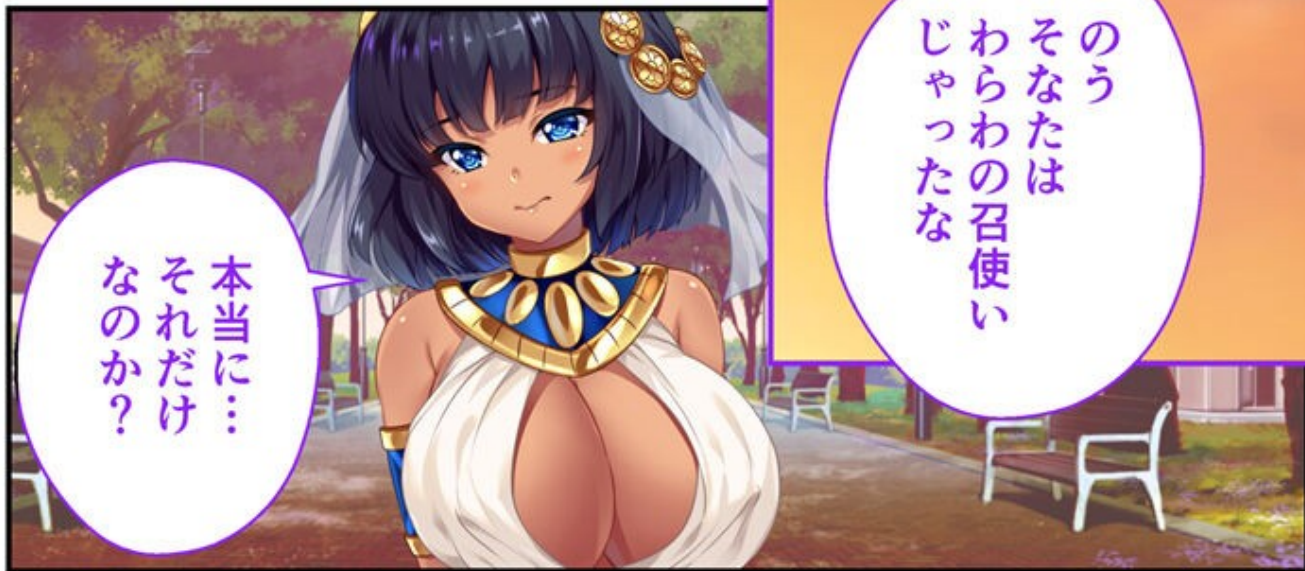
そんなキミに  
奉仕できるのが  
嬉しいって言うか…

ふふっ  
可愛いことを  
言いおって♪

ほれ、ぼる●おまで  
ねじ込んでわらわを  
イカせるのじゃっ!!

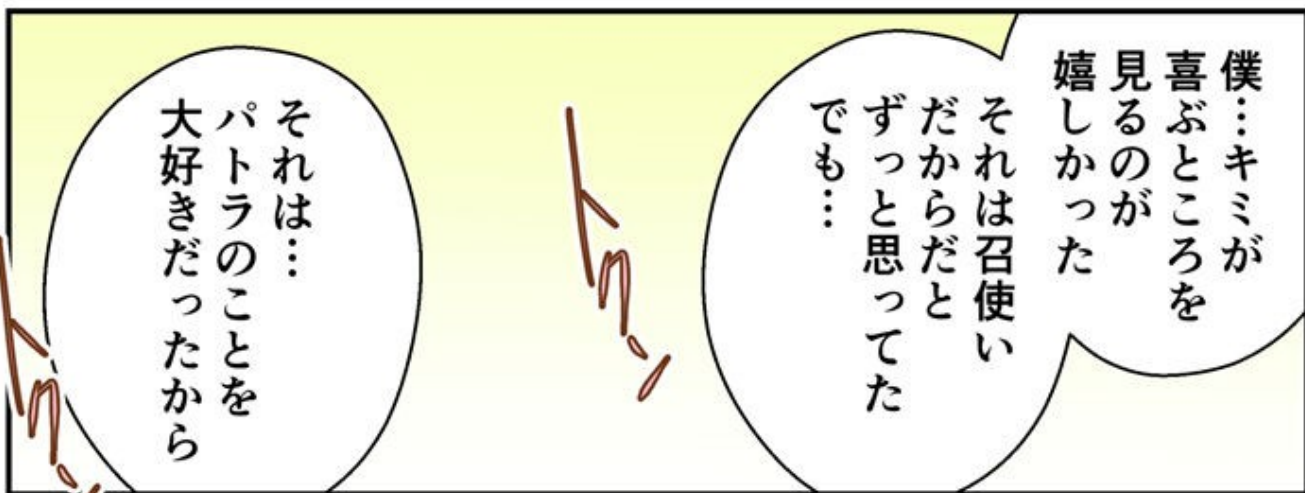
ひいいいんっ♪  
召使いに乱暴に  
されてるところっ  
見られてるうっ♪

イクうっ!!  
見られながらっ…  
イグうっ!!  
はあああああっ!!



のう  
そなたは  
わらわの召使い  
じゃったな

本当に…  
それだけ  
なのか？



僕…キミが  
喜ぶところを  
見るのが  
嬉しかった

それは召使い  
だからだと  
ずっと思っただ  
でも…

それは…  
パトラのことを  
好きだったから



愛していたからだよ  
召使いのくせに…  
そんなことを考えてた

…言い訳はいらぬ  
そなたの本心が  
聞けただけでわらわは  
満足したからのう

…わらわは  
そなたに  
近づき過ぎて  
しまったようじゃ

これ以上わらわと  
共にいては  
そなたにも不幸が  
訪れるに違いない

…また  
疫病神のことを  
言ってるの？

わらわは  
もう男たちの  
死を見届けるのが  
嫌なのじゃ

あんな哀しみは  
あのお方  
だけでい……

ふふふ…やはり  
あのお方とそなたは  
よく似ているのう


キミはその男に  
どんな感情を  
抱いていたの？

…あのお方って  
誰のことなの？  
カエサルじゃ  
ないよね

カエサル  
たちと同じく

おのれの権勢を  
守るための道具  
だったのかい？

心、いや魂とでも  
言うべきか…  
まるでそなたは…



初めはそうじゃった  
じゃがな…あのお方は  
わらわを本当に  
愛してくれていたのじゃ

もつとも  
それを知ったのは  
その死の間際  
だったがのう…

キミは…  
その人のこと  
少しでも  
愛していた…？




わからぬ…  
だがわらわが秘薬を  
飲んだのはその後の  
ことじゃ

もしかすると  
来世に期待していたの  
かもしれぬ  
再び会えることを…

わらわが欲していた  
絶対的栄華…  
そんなものにはなんの  
価値もなかった

ふふ…わらわが  
真に  
欲していたのは…



…愛だよ  
僕が欲しかった…  
キミに求めていたのは  
たったひとつの…

そうじゃ  
そなた…

…アントニウス様  
わらわは貴方を裏切った  
わけではないのじゃ  
わらわは…

このわらわを  
許して  
くれるのか？

マルクス・  
アントニウス様に  
求めていたのは…  
愛だったのじゃ

もういいよ、パトラ  
キミは守らなければ  
ならないものがあつた  
だから謝らないで…ね？

う…っ、ううっ  
アントニウス…  
いや、アヤト様

んわ…

…そう、この出会いは  
偶然じゃなかつたんだ  
二千年の長い長い時を  
渡り、再会するために…

様付けは  
くすぐりたいよ  
いつもどおり  
綾人あやとでいいから

この時代では昔ほどの  
栄華は与えられない  
けどさ、代わりに…

わかって  
おるぞよ♪  
栄華などいらぬ

わらわが  
欲しいのは…

あれから  
数年後

まったく、こんな  
だらしない  
おっぱいに  
なっちゃって！

いくら子供三人  
生んだからって  
これはちよっと  
だらしなさすぎっ！

はおおんっ♪  
だっただってえっ  
そなたがいつも好き  
放題するからあっ

ぎゅっ  
ふっ

わらわの乳が  
だらしくなったのも  
全部アヤトのせい  
なのじゃあっ♪

ぐぬぬっ なんでも  
僕のせいにしてっ！  
いくら僕より稼ぎが  
いいからって…

んふう…っ♪  
な…なんじゃ、男の  
嫉妬は見苦しいぞよ♪

アゲッ  
アゲッ

アゲッ  
アゲッ

ちなみに彼女は  
モデル活動をしている  
さすがに妊娠中の今は  
休職中だけど…

ふふふっ♪  
わらわはのう  
早く邸宅を  
構えたいのじゃ

かの  
アレクサンドリアの  
宮殿も霞むほどの  
大邸宅をな♪

おお、そうじゃ！  
わらわとアヤトの血族で  
この国を埋め尽くして  
やるとするかろう！

あは…あははっ♪  
それがパトラの新しい  
栄華ってところかな？

うむっ♪ ならば  
もっともっとと子作り  
せねばな！  
休んではおられぬぞ！

でもさ、そんなに  
身体が持つかかな？  
頑張るつもり  
だけど

なあに、そこは  
秘薬でどうとでも  
なるわ

んんっ!! やっぱり  
秘薬って万能すぎるなあ  
ふふっ、それはそれで  
助かるけど!

あひいっ!  
まだ話の途中では  
ないかあっ♪

だってパトラの中  
早くしてって  
泣いてるんだもの

んくうっ!!  
アヤト…っ  
わらわ…  
いきそうじゃっ!

んひい!!  
もおっ、駄目えっ!!  
死ぬうっ、おっ  
おおお…っ!!

わ、わかった…!!  
だったら僕も…!!

アッ  
たふっ

アッ  
たふっ

アッ  
たふっ

アッ  
たふっ

アッ  
たふっ



うう……っ  
パトラ……っ、これで  
うああああっ!!

はひやああーっ!!  
イグうううーっ!!

ブツッ  
ブツッ

ブツッ

ブツッ  
ブツッ

キョウウ  
ブツッ



はへえ……  
ザー●んいっぱいであつ  
子●がビクビクしちやつ  
てるのじゃあ♪

あはは……  
気持ち  
良かったって  
ことだね

んひ……い♪  
アヤトおっ……  
らいすきい……っ

これからも……  
ずっと一緒  
じゃあ♪



大人の禁SEXY絵本

©ATELIER G/H